コロナワクチン3回目接種前倒し
医療従事者は接種始まる

新型コロナウイルスワクチンの３回目接種が医療従事者、高齢者施設職員を２カ月、65歳以上の高齢者を１カ月前倒しして始まった。

当初は２回目の接種から８カ月の間隔を空けてのスケジュールだったが、オミクロン株蔓延への懸念や国の方針等でその間隔の短縮を決め、医療従事者、高齢者施設職員は６カ月、高齢者は７カ月にそれぞれ短縮する。ワクチン自体は２回目の種類にかかわらずファイザー社製、モデルナ社製のどちらかを使うことになり、交互接種の場合の効果と安全性は問題ないとされている。

３回目の接種を終えた医療従事者によると「１、２回目の時と同様で腕の痛みは多少残るが大きな副反応はなかった。多くの人が早く３回目の接種が受けられるよう期待している」と話した。最近外出を控えているという市内在住の女性（90）は「早く３回目の接種を受けて安心したい」と安そうだった。

高齢者には１月17日から接種券を順次発送。届き次第に前回同様の方法で予約、２月から接種が始まる。

政府公式「ワクチン接種証明書アプリ」使用開始

昨年12月20日、政府が公式に提供する「新型コロナワクチン接種証明書アプリ」が使用開始となった。このアプリで「新型コロナウイルスワクチン接種済み」を公的に証明できる。

日常生活や経済社会活動における感染リスクを引き下げるため、渡航、イベント参加、飲食店利用などの際での活用を想定しているという。

本国内用と海外用があり、氏名、生年月日、接種記録（ワクチンの種類・接種年月日・ロット番号など）が記載。これらに加えて、海外用では、パスポートの国籍や旅券番号を記載。スマートフォンの専用アプリを導入すればワクチン接種時に得られる「接種済証」や「接種記録書」を持ち歩くことが不要になる。

スマートフォン等のアプリで使用する場合にはマイナンバーカードと発行時に設定した４桁の暗証番号が必要。スマートフォンの専用アプリから申請し、二次元コード付き予防接種証明書（電子版）を即日取得できるので一見便利なようだが対応していない機種もあり、そもそもマイナンバーカード取得者でないとアプリは使えず、誰でも簡単に活用できるわけではない。電子交付対象外の場合は、紙面による予防接種証明書の交付申請（郵送申請）を受け付けている。

問い合わせは千葉市コロナワクチン接種コールセンター（☎0120・57・8970）へ。

海外では防疫措置の緩和等が認められる国や地域もあるとのこと。

すでにスタートしている各種ワクチンパスポートもあるが、デジタル庁による「新型コロナワクチン接種証明書アプリ」が日本政府公式となる。

新型コロナワクチン接種証明書には日本語、英語、ラテン語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、ギリシャ語、ヘブライ語、アラビア語、中国語、韓国語、ヒンディー語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ウルドゥー語、ペルシア語、ポーランド語、ルーマニア語、ハンガリー語、ブルガリア語、チェコ語、スロバキア語、スロベニア語、ラトビア語、リトアニア語、エストニア語、ノルウェー語、デンマーク語、スウェーデン語、フィンランド語、アイスランド語、オランダ語、ブルトン語、ウェールズ語、ガリシア語、カタルーニャ語、バスク